天井埋込形４方向吹出　据付工事説明書

PJF012D078AA 1
202603

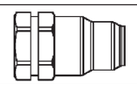
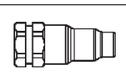
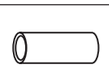
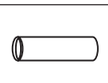
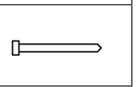
本説明書は、室内ユニットの据付け方法を記載してあります。「室内ユニット据付工事安全上のご注意」および「微燃性冷媒取扱時の安全上のご注意」をご覧になった後、室内ユニットの据付けを行ってください。
●この製品には UV-C LED ランプが搭載されています。
●点検時に、紫外線の危険記号で示されている部品は、なるべく取り外さないようにお願い致します。
●電気配線（室内ユニット）は、電気配線工事説明書をご覧ください。
●リモコンの取付方法は、リモコン付属の説明書をご覧ください。
●ワイヤレスキットの取付方法は、ワイヤレスキット付属の説明書をご覧ください。
●安全遮断弁の取付け方法は、安全遮断弁付属の説明書をご覧ください。
●冷媒検知警報器の取付方法は、冷媒検知警報器付属の説明書をご覧ください。
●室外ユニットの据付方法、電気配線（室外ユニット）及び冷媒配管工事方法は、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。
また、故障診断は、室内ユニットの結線銘板をご覧ください。本室内ユニットは必ずパネルを取付けてご使用ください。
この室内ユニットは、日本国内用に設計されているため海外では使用できません。また、海外においてはアフターサービスもできません。
This product is designed for use only in Japan and cannot be used in any other countries. No servicing is available outside of Japan.

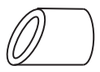
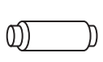
①据付け前に

●据付けはこの据付説明書に従って正しく行ってください。
●次の項目を確認してください。
　○機種・電源仕様　　○配管・配線・小物部品　　○付属品

室内ユニットを移動させるときは吊金具(４ヵ所)を持ち、他の部分(特に冷媒配管、ドレン配管および樹脂部品)には、力を加えないでください。

付属品

室内ユニット吊込み用		冷媒配管用				
平座金(M10)	レベルゲージ及び平座金仮固定	ねじ接合継手(大)※	ねじ接合継手(小)※	パイプカバー(大)	パイプカバー(小)	バンド
						
８個	１個	１個	１個	１個	１個	４本
吊りボルト用	室内ユニットの位置調整及び吊り込み時の補助用	ガス管接続用	液管接続用	ガス管断熱用	液管断熱用	パイプカバー固定用

ドレン配管用					コントロール用
パイプカバー(大)	パイプカバー(小)	ドレンホース	ホースクランプ	抗菌材	解除ピン※
					
１個	１個	１個	１個	１個	１本
ドレンソケット断熱用	ドレンソケット断熱用	ドレン配管接続用	ドレンホース取付け用	ドレンパン防汚用	インターロック解除用

※R32ビル用マルチ機のみ付属しています。

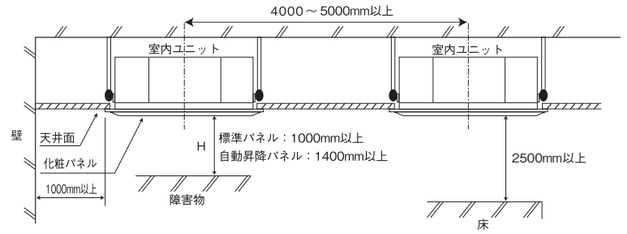
②室内ユニットの据付け場所の選定

①据付け場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
　・冷風または温風が十分に行きわたる所。
　　据付け高さが３ｍを超えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をご指導ください。
　　人感センサを使用する場合、据付け高さは 4m 以内としてください。センサー感度が鈍くなり、検知しにくくなります。
　・据付け・サービス時の作業スペースが確保できる所。
　・ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。
　・吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
　・侵入外気の影響のない所。
　・直射日光の当たらない所。
　・周囲の露点温度が２８℃以下、相対湿度８０％以下の所。
　　室内ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態で運転すると水滴が落下する恐れがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合は、室内ユニットの全ておよび配管、ドレン配管にさらに10～20mmの断熱材を取付けてください。
　・テレビ、ラジオより１ｍ以上離れた所。(映像の乱れや雑音が生じることがあります。)
　・室内ユニット真下に食品・食器やパソコン・サーバー、医療機器など濡れて困るものを置かない所。
　・調理器具が発する熱の影響を受けない所。
　・フライヤーの真上など油・粉・蒸気などを直接吸込まない所。
　・蛍光灯、白熱灯よりできるだけ離れた所。
　　ワイヤレス機種の場合、ワイヤレスリモコンでの正常な操作ができなくなることがあります。
②据付けようとする場所が室内ユニット重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、桁等で補強して据付け作業を行ってください。強度不足の場合は、室内ユニット落下によるケガの原因になります。
③ワイヤレス機種を２台以上据付ける場合は、混信による誤動作を防止するため室内ユニット間を６ｍ以上離してください。
④室内ユニットを隣接して設置する場合は、室内ユニット間距離を４～５ｍ以上離して設置してください。

②室内ユニットの据付け場所の選定のつづき

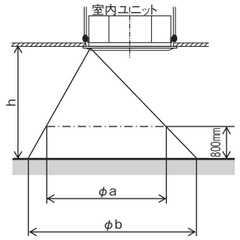
室内ユニット据付けスペース

●室内ユニット－壁、室内ユニット－室内ユニット間など、間隔がとれない場合は、そちら側の吹出口を遮風しショートサーキットしないことを確認してください。
●**据付け高さは２．５m以上としてください。**2.5m 未満となる場合はファンガード（別売）を取付てください。



埋設配管途中に配管継手がある場合は、接続ヵ所の点検が可能なように点検口などを設けてください。

人感センサ検知範囲の目安



天井高さ　h [m]	2.7	3.5	4.0
検知範囲①　φa [m]	約 4.5	約 6.4	約 7.6
検知範囲②　φb [m]	約 6.4	約 8.3	約 9.5

吹出パターンの設定

●部屋の形や据付位置に最適な吹出方向を４方向・３方向・２方向から選定してください。(１方向はできません。)
●吹出口数を変更する場合は、別売の遮風材を手配してください。
●２方向・３方向吹出の場合は風量「弱」での使用は避けてください。
●高温・多湿環境での２方向吹出は行わないでください。(結露・水漏れの原因になります。)
●吹出ルーバの上下位置の設定などによりさまざまな吹出パターンが設定できます。設定方法は取扱説明書をご覧ください。

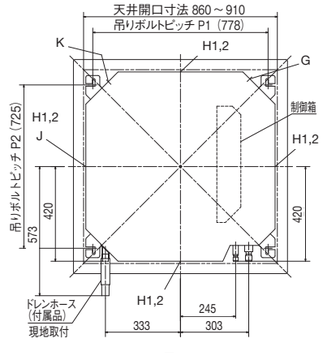
③据付け準備

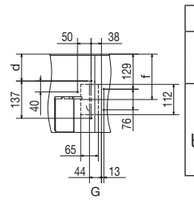
●吊りボルト長さが長くなる場合は耐震補強を実施してください。
　○システム天井（グリッド天井・ライン天井）の場合
　　吊り長さ（吊りボルト長さ）５００mm以上又は天井ふところ高さ７００mm以上の場合に耐震ブレースを設置してください。
　○強度が十分にある天井面に設置され直接スラブから吊り下げる場合
　　吊り長さ（吊りボルト長さ）１０００mm以上の場合に耐震ブレースを設置してください。
●吊りボルト・ナット・バネ座金（Ｍ１０ or Ｍ８）を４組現地にて手配してください。

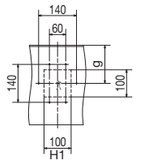
天井開口穴・吊りボルトピッチ・各配管の位置

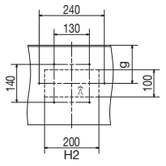
※:ユニット形式を示す。 例　63形:FDTZP63を表す。(mm)

		機種　※	a	b	c	d	f	g	h
店舗	標準機 寒冷地機	63, 71形	236	130	100	37	105	88	139
		80, 160形	298	182	152	99	167	140	201
R32 ビル用	マルチ機	28, 36, 45, 56, 71, 80形	236	130	100	37	105	88	139
		90, 112, 140, 160形	298	182	152	99	167	140	201

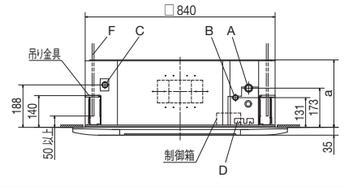


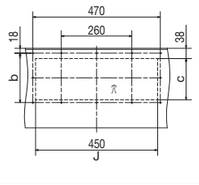


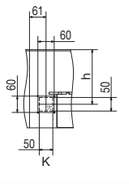




記号	内容	記号	内容
A	冷媒ガス側配管	G	ＯＡ取入口
B	冷媒液側配管	H1	吹出分岐ダクト
C	ドレン配管	H2	接続口
D	電源取入口	J	加湿器接続口
F	吊りボルト	K	加湿器余剰水接続口







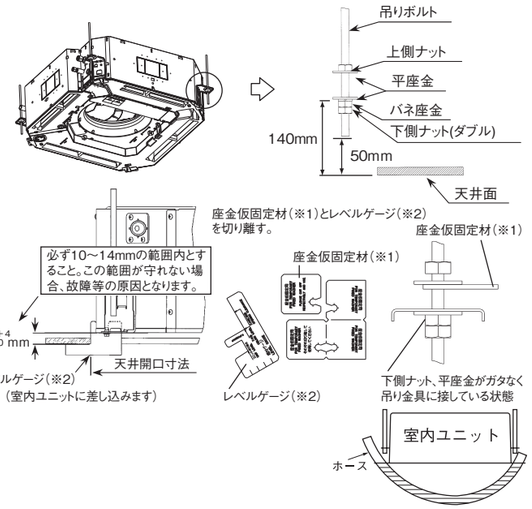
※吊りボルトピッチ P1、P2 は下表のパターンで調整可能です。

パターン ＼ 記号	P1	P2
1	770	725～770
2	770～800	725

④室内ユニットの据付け

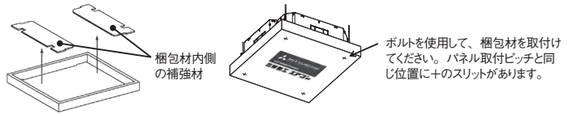
作業手順

1. 梱包材（天面ダンボール）の吊りボルトピッチを目安に吊りボルト位置を選定してください。
2. 吊りボルト長さは、天井面より50mm 程度としてください。
3. 吊りボルトの下側ナット(4ヶ所)は、天井面から140mm 程度に仮止めしてください。
4. 吊りボルトの上側ナット(4ヶ所)は、室内ユニット吊り込み及び高さ調整時に支障のないよう、下側ナットから十分距離を取った位置に仮止めしてください。
5. 吊りボルトの上側ナットと上側座金（各4ヶ所)を下側ナットから十分な距離をとった状態で、座金仮固定材(※1)を吊りボルトに挿しこんでください。上側座金が落下してきません。
6. 室内ユニットを吊り込んでください。
7. 室内ユニット吊り込み後、付属のレベルゲージ(※ 2)を室内ユニットの吹出口に取付け、室内ユニットの吊り込み高さを調整してください。高さ調整は上側ナット(4ヶ所)を緩めた状態で、下側ナット(4ヶ所)で調整してください。室内ユニット吊り金具(4ヶ所)が下側ナット，平座金にガタなく接していることを確認してください。
8. 座金仮固定材(4ヶ所全て)を取外してください。
9. 室内ユニットの水平度を確認してください。水平度は水準器または透明ホースに水を入れたものを使用して確認してください。
   (室内ユニットの両端での高さ許容差は 3mm 以内)
10. 吊りボルトの上側ナット(4ヶ所)を締付けてください。



室内ユニットの養生

●パネルをしばらくの間取付けられない場合、または室内ユニットを据付け後に天井材を貼る場合は、梱包材 (天面ダンボール) を使用して、室内ユニットを養生してください。



室内ユニット据付け時のお願い

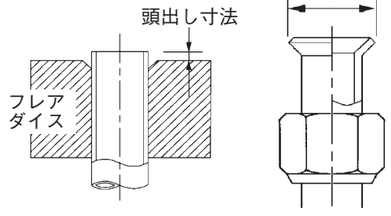
●上側ナットで高さ調整を行わないでください。室内ユニットに無理な力がかかり変形し、パネルが組付けできなかったり、ファン干渉音が発生することがあります。
●室内ユニットは必ず水平に据付け、室内ユニット下面と天井面の高さを正しく設置してください。据付けに不備があると風漏れ、結露・水漏れ、騒音の原因になります。
●パネルを据付け後、室内ユニット高さの微調整ができます。詳細はパネルの据付説明書をご覧ください。
●パネルと天井面、およびパネルと室内ユニットとの接触部は確実に密着させてください。隙間があると風漏れ、結露・水漏れの原因になります。

⑤冷媒配管

冷媒配管時の注意事項

●**冷媒配管は、新規配管をご使用ください。**
●**冷媒配管の接続方式は、「微燃性冷媒取扱時の安全上のご注意」に従い選定してください。**
ねじ接合継手により接続する場合は、ねじ接合継手に付属の説明書に従い作業してください。
●**フレア接続する場合、フレアナットは製品付属ものをご使用ください。**他のフレアナット (1 種) を使用すると冷媒漏れの原因となります。
●**既設配管再利用の可否及び洗浄方法については、室外ユニットの据付説明書又はカタログ・技術資料で確認してください。**
1) 再利用する場合、フレアナットやねじ接合継手は流用せず必ず未使用品を使用してください。
2) 再利用する場合、部分的に交換した新しい配管を室内機に接続してください。

フレア接続準備

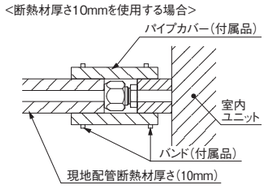


配管径 d mm	配管の最小肉厚 mm	フレア加工 頭出し寸法 mm		フレア外径 D mm	フレアーナット締付けトルク N·m
		リジッド（クラッチ式）			
		R32 用 R410A 用	従来ツール		
6.35	0.8	0 ～ 0.5	0.7 ～ 1.3	8.9 ～ 9.1	14 ～ 18
9.52	0.8			12.8 ～ 13.2	34 ～ 42
12.7	0.8			16.2 ～ 16.6	49 ～ 61
15.88	1			19.3 ～ 19.7	68 ～ 82
19.05	1.2			23.6 ～ 24.0	100 ～ 120

●**冷媒配管は、リン脱酸銅合金継目無銅管（C1220T、ＪＩＳＨ３３００）をご使用ください。**
また管の内外面は美麗であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等（コンタミ）の付着がないことを確認してください。
冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化などの原因になります。

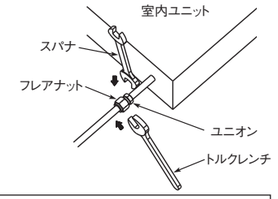
⑤冷媒配管のつづき

●**指定冷媒以外は使用しないでください。**
指定冷媒以外を使用すると、冷凍機油劣化などの原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂などの原因になります。指定冷媒は室外ユニットの形式ラベルをご覧ください。
●**据付けに使用する配管は屋内に保管し、両端ともろう付けする直前までシールしてください。**
冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。
●**工具はＲ３２用またはＲ４１０Ａ用の工具を使用してください。**



フレア接続手順

1．室内ユニットのフレアナット及びキャップを取外してください。
※室内ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで２丁掛けして外してください。
（このときガスが出ることがありますが、異常ではありません。）
●**フレアナット飛びに注意してください。**（内部に圧力がかかっている場合があります。）
2．液管・ガス管をフレア加工し、右図に示すように冷媒配管を接続してください。
※配管の曲げは４Ｄ以上の大きな半径で行い、曲げなおしを行わないでください。
また配管をねじったり、2/3D 以下につぶしたりしないでください。
※フレア接続は、以下のように行ってください。
・フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで３～４回転ねじ込み、２丁スパナ掛けで表の締付力で締めてください。
3．室内ユニットのフレア部は、ガス漏れチェック後、右図に示すように断熱材をかぶせ、バンドでしっかりと締付けてください。
●**ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。**
※配管は断熱しないと結露し水漏れします。
●**ガス側配管の断熱材は耐熱120℃以上のものを使用してください。**
●**高湿度雰囲気で使用する場合は設置環境に合わせて、冷媒配管の断熱を強化してください。強化しない場合は断熱材表面に結露することがあります。**
4．冷媒は室外ユニットに充填されています。
室内ユニットおよび接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の据付説明書をご覧ください。



注意
同一締付けトルクでも、ユニオンのねじ部に冷凍機油を塗布した場合は、ねじ部摺動摩擦力が下がることにより、軸方向分力が増加してフレアの応力腐食割れの原因となることがあるため、ユニオンねじ部、又はフレア外面への冷凍機油塗布は推奨しません。
冷凍機油を塗布する場合は、フレア内面へのみとしてください。

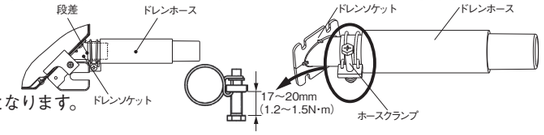
⑥ドレン配管

ドレン配管時の注意事項

●**ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。**
記載に従って施工しない場合、屋内に浸水し、家財などを濡らす原因になることがあります。
●**ドレン工事は付属のドレンホースを必ず使用してください。使用しないとドレンソケットに力がかかり破損し、水が漏れることがあります。**
●**ドレン配管はイオウ系ガスなど有害ガス及び可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。**
室内に有害ガス及び可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。
●**接続部から水漏れのないように確実に施工してください。**
●**水漏れが起こらないように、断熱工事を確実に行ってください。**
●**施工後、ドレンが排水されていることを、室内ユニットのドレン口及びドレン配管最終出口部で確認してください。**
●**ドレン配管は下り勾配(1/100 以上)とし、途中山越えやトラップを作らないでください。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けないでください。**
試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認してください。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保してください。

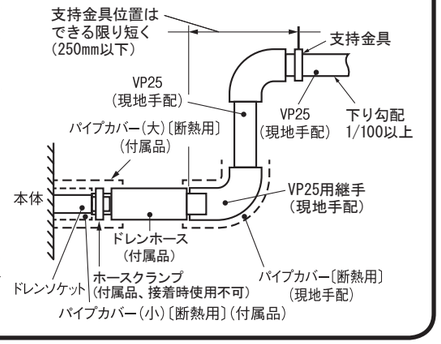
ドレンソケットとドレンホースの接続

●**ドレンソケットの周囲温度が50℃以上となる場合は、ドレンソケットとドレンホースを接着してください。**
●接着剤とホースクランプは併用しないでください。水漏れの原因となります。



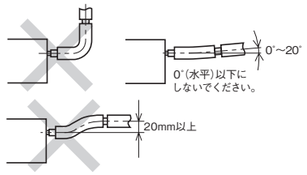
〈ホースクランプを使用する場合〉
1. 付属のドレンホースの軟質側にホースクランプを通し、ドレンソケットの段差部まで確実に挿入してください。その際、ホースクランプのねじが室内ユニットの外側になる位置にし、ボルトが鉛直方向になるようにしてください。
2. ホースクランプはドレンホースの断熱材に接触する位置で、ねじを締め付けてください。
3. ねじを数回回転させて締め付けが固くなる位置まで締め付け、それ以上に締め付けないでください。
ねじの締め代の目安は17～20mm (参考:1.2～1.5N・m) です。

〈接着する場合〉
1. 塩ビ系接着剤を使用して、ドレンホースの軟質側とドレンソケットを接着してください。その際、ドレンホースをドレンソケットの段差部まで確実に挿入してください。
2. 接着方法は接着剤の使用方法に従ってください。
接着剤推奨品：積水化学工業製エスロン No73S，クボタケミックス製タフダイン青
※フタル酸エステル類が含有している接着剤は使用しないでください。水漏れの原因となります。
●ドレンホースやドレンソケットの内部に接着剤が流れ込まないようにしてください。

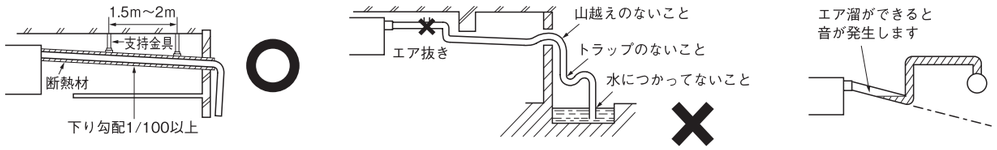


⑥ドレン配管のつづき

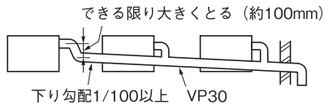
ドレンホースと配管の接続



1. VP25用継手やエルボー、配管(いずれも現地手配)を接続してください。
   ※ドレン管は、市販の硬質塩ビパイプ一般管VP25を使用してください。
   ●接着剤は付属のドレンホース内部に流れ込まないようにしてください。
   乾燥後、フレキ部に力が加わった場合、フレキ部が破損することがあります。
   ●ドレンホースは、室内ユニットあるいはドレン配管の据付け時の微小なズレを吸収するためのものです。故意に曲げたり、引っ張って使用された場合は、破損し、水漏れに至ることがあります。
2. ドレン配管を接続する場合、ドレンソケットやドレン配管に力が加わらないようにしてください。
   できる限り室内ユニット近傍 (現地手配の継手先端から 250mm 以内) でドレン配管を支持してください。
3. ドレン配管は下り勾配(1/100以上)としてください。不可能な場合はドレンアップしてください。途中山越えやトラップを作らないように施工してください。
   ●エア抜きは絶対に設けないでください。



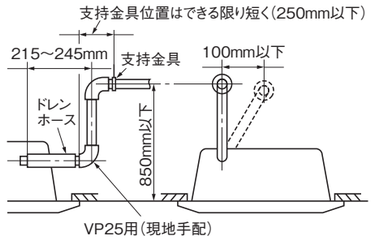
●複数台のドレン配管の場合、室内ユニットドレン出口より約100mm下に集合配管がくるようにしてください。
また集合配管はVP30以上を使用してください。



4. ドレン配管の断熱施工を行ってください。
   ●結露が発生し、水漏れをおこすおそれがありますので、ドレンソケット部および室内にある硬質塩ビパイプは確実に断熱してください。
   ※ドレンソケット部は、排水テスト実施後、付属のパイプカバー(小)をドレンソケット部に装着した後、付属のパイプカバー(大)にてパイプカバー(小)、ホースクランプおよびドレンホースの一部を覆い、テープにより隙間のないように巻いてください。

ドレンアップする場合

●ドレン配管の出口高さは、天井面より850mmまで高くすることができます。天井内に障害物などがある場合、エルボなどを用いて施工してください。この場合、ドレン配管を立ち上げるまでの距離が長いと、運転停止時におけるドレン逆流量が多くなり、オーバーフローすることがありますので、右図寸法内で処理願います。

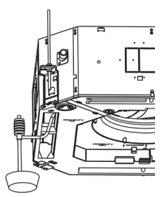


ドレン排水テスト

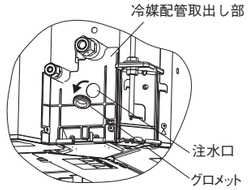
●ドレン配管工事の完了後に、排水が確実に行われていることを、接続部および室内ユニットのドレンパン部から水漏れのないことを確認してください。このとき、ドレンポンプのモータ音に異常がないことも確認してください。
●暖房期の据付けの際にも必ず実施してください。
●新築の場合には天井を張る前に実施してください。

1. 室内ユニットドレンパンの中へ水を約1000cc 注水してください。注水時は、ドレンポンプなどの電機部品に水をかけないようにしてください。
   注水は、吹出口から給水ポンプなどを使用するか、冷媒配管取出し部の注水口から行ってください。
2. ドレン排水が確実に行われること、ドレン配管接続部から水漏れのないことを確認してください。
   ドレンポンプの回転音を確認しながら排水するかどうかをテストしてください。ドレン排水の確認は、ドレンソケット部（透明）より確認できます。
3. 排水テスト後は、ゴム栓を外して水抜きを行ってください。
   水抜き確認後は、ゴム栓を元通りにはめ込んでください。
   ドレン配管の断熱を室内ユニット部まで完全に行ってください。
   リッドを外して注水した場合は、リッドを装着しなおしてください。

●吹出口から注水する場合



●冷媒配管取出し部の注水口から注水する場合



ドレンポンプ運転方法

○電気配線工事が完了している場合
ドレンポンプの運転がリモコン(ワイヤード)操作により可能です。運転操作方法は、電気配線工事説明書の「ドレンポンプ運転操作」をご覧ください。

○電源が供給されている場合
室内ユニット基板上のSW7－1をONにし、かつ、基板上のコネクタCNBを抜いた後、電源ON(端子台①、②へAC200V)すると、ドレンポンプのみ連続運転します。ドレン排水確認後は、必ずSW7－1を元の状態(OFF)に戻し、かつ、基板上のコネクタCNBを差し込んでください。

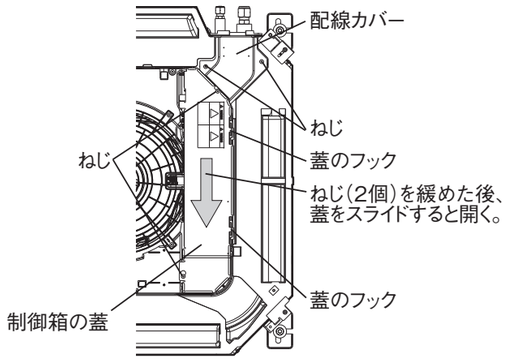
○電源が供給されていない場合
ドレンポンプ試運転用チェッカー(別売)でドレンポンプを運転することが可能です。操作方法はドレンポンプ試運転チェッカに付属の取扱説明書をご覧ください。

⑦電気配線取出位置および電気配線接続

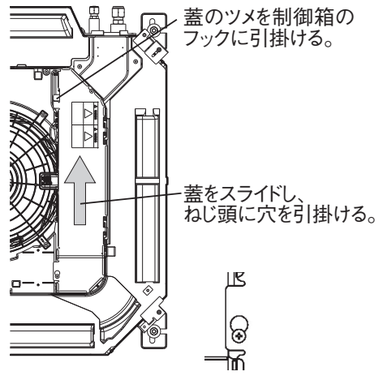
●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」及び電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定してください。
●電源線と信号線は同一経路を通さないようにしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。
●D種接地工事を必ず行ってください。
●電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。

1. 制御箱の蓋のねじ(2個)を緩め、蓋を図の矢印の方向にスライドしてください。蓋を開くことができます。
2. 蓋のフックを制御箱の穴から外して、蓋を取外してください。
3. 配線カバーのねじ(2個)を取外して、配線カバーを取外してください。
4. 各配線を制御箱内に入れ、端子台に確実に接続してください。
5. 各配線をバンドで固定してください。
6. 配線カバー , 制御箱の蓋を取付けてください。

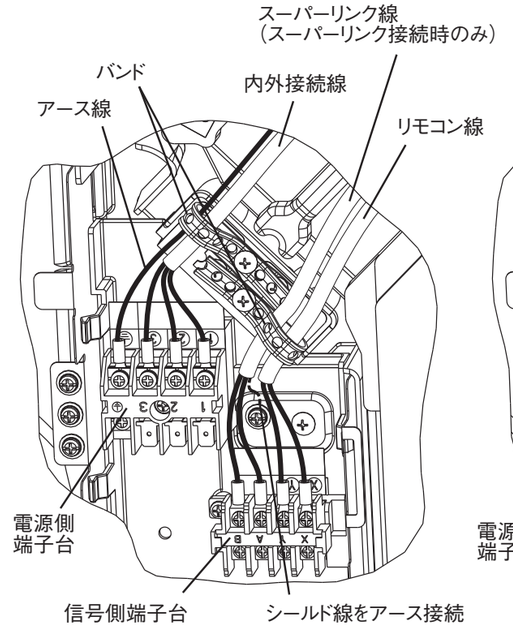
制御箱の蓋を開ける場合



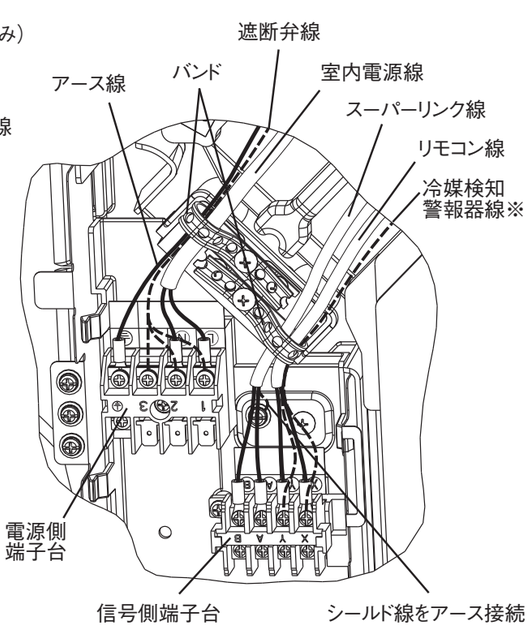
制御箱の蓋を閉める場合



店舗シリーズ
中温PACシリーズ



R32 ビル用マルチ機シリーズ



メインヒューズ仕様

仕様	部品番号
T3.15A L250V	SSA564A149AF

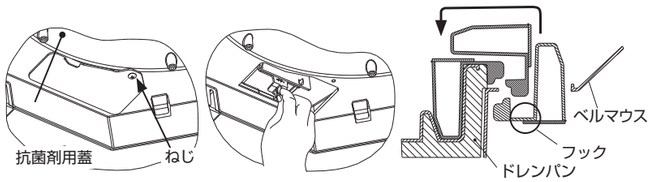
※ 他社製の安全対策機器を接続する場合は、電気配線工事説明書をご覧ください。

⑧抗菌剤の取付け

●付属の抗菌剤ケースをドレンパン内に取付けてください。抗菌剤ケースの中に抗菌剤が入っています。
●抗菌剤ケースの取付けは室内ユニットを吊った後に実施してください。室内ユニットが天地逆では取付けられません。

作業手順（付属抗菌剤の交換目安：冷房１シーズン）

1. 抗菌剤用蓋のねじ（１個）を取外し、抗菌剤用蓋を取外してください。
2. 取出し口から抗菌剤を取付けてください。抗菌剤ケースのフックの奥まで、ドレンパンが達するように取付けてください。
3. 抗菌剤用蓋を取付けてください。風漏れや異常音の原因となります。



⑨パネルの取付け

●パネルは、電気配線工事完了後に、室内ユニットに取付けてください。
●パネルの取付け方法は、パネル付属の据付説明書をご覧ください。

⑩室内ユニット据付け工事完了後のチェック項目

●室内ユニット・パネル据付け工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。
R32 ビル用マルチ機の場合、付属の「据付工事施工チェックリスト（R32 ビル用マルチ）」を用いて安全対策機器の確認をしてください。

チェック項目	不良の場合	チェック欄
室内外ユニットの取付けはしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレン排水はスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は室内ユニットの銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
配線の太さは仕様通りですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	

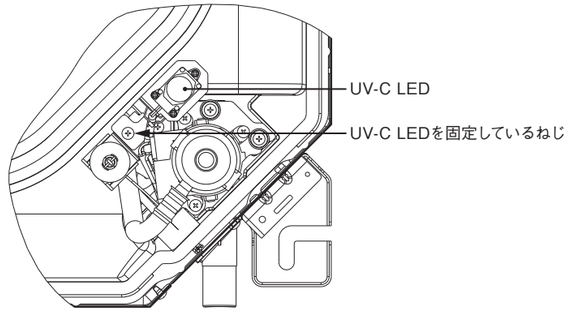
⑪店舗シリーズ機種容量統合機の場合

室外ユニットとの組合せにより下表の通り室内ユニットが自動認識されます。機種銘板の機種容量に○印を付けてください。

	室内ユニット	室内ユニット１台										２台接続						３台接続		４台接続	
	室外ユニット	40	45	50	56	63	71	80	112	140	160	80	112	140	160	224	280	160	224	224	280
標準機	FDTZP63	P40	P45	P50	P56	P63						P40	P56					P50		P56	
	FDTZP71													P71					P71		P71
	FDTZP80							P80							P80						
	FDTZP160								P112	P140	P160					P112	P140				
寒冷地	FDTZP71											P40	P56								
	FDTZP160							P80	P112												
中温PAC	FDTP140							P80	P112	P140						P112	P140				

⑫UV-C LEDの交換（メンテナンス）

UV-C LED が寿命時間に到達すると、リモコンにメンテナンスコード “M53” が表示されます。
UV-C LED の交換を行う際には必ず以下のことを守ってください。（UV-C LED の部品番号：PJF543C001）
●必ず電源をお切りください。
●機器の清掃及び点検時は取扱説明書と据付説明書を読んでください。
●「⑬ドレンパン汚れ確認、ドレンポンプ吸込口清掃（メンテナンス）」のドレンパン取外し時の注意事項を読み、ドレンパンを外してください。
● UV-C LED を固定しているねじを外して UV-C LED を交換してください。



⚠ 注意：UV-C LED の交換作業を実施する前に、必ず電源を切ってください。
⚠ 注意：UV-C LED を室内ユニット外で通電させないでください。必ず室内ユニット内に据え付けた状態で使用してください。
⚠ 注意：UV-C 光は少量であっても目や皮膚に害を及ぼすおそれがあります。

⑬インターロック機能（R32 ビル用マルチ機のみ）

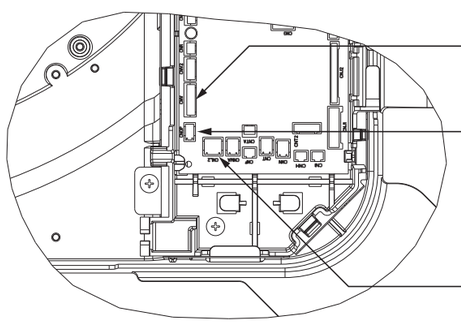
● R32 ビル用マルチ機の室内ユニットは、冷媒漏えいの安全対策のためにインターロック機能が有効になっています。
●インターロック機能が有効になっている場合、空調システムは運転できません。
※インターロックが有効状態だとリモコンにメンテナンスコード（M28）が表示され、ユニットは運転できません。

インターロック機能の解除方法

○すべての安全対策機器が必要な場合
下記のすべての安全対策機器を室内ユニットに接続してください。
・安全遮断弁
・冷媒検知警報器
・eco タッチリモコン（RC-DX3D 以降）
○接続する安全対策機器が一部のみ・安全対策機器が必要ない場合
室内ユニットに付属のインターロック解除ピンを室内制御基板上のコネクタに接続してください。（下図参照）
※解除ピンの接続の前には、**冷媒漏えいに対する安全対策が十分であること**、もしくは**安全対策が必要ないこと**を必ず確認してください。
※冷媒検知警報器に子機として接続している室内ユニットのインターロック機能を解除するためには、解除ピンの接続が必要です。
※安全対策機器の要否、及びインターロック機能についての詳細は、「安全対策マニュアル」をご覧ください。

＜インターロック解除ピンの接続コネクタ＞

インターロック解除ピンは室内ユニットの制御箱付近に付属しています。
使用しない場合は取り外して廃棄してください。



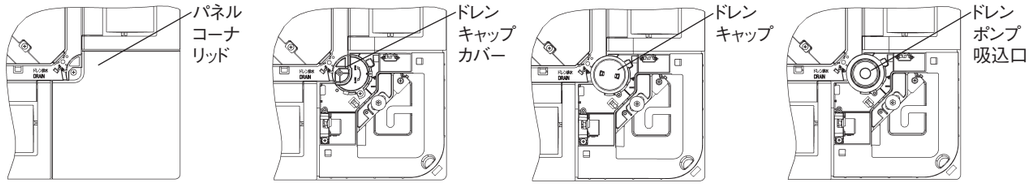
⑭ドレンパン汚れ確認、ドレンポンプ吸込口清掃（メンテナンス）

ドレンパン汚れ確認方法

●ドレンキャップカバーを取り外す際は、本体の電源を切ってください。

●パネルを取外さずに、ドレンパンの汚れやドレンポンプ吸込口の状況を確認できます。
（高性能フィルタなどのオプションスペーサやお掃除パネルの取付け時は確認できません。）

1. パネル吸込グリルを開け、ドレンポンプ側のパネルコーナリッドを取外してください。
2. パネルコーナにあるドレンキャップカバー（ねじ１個）を取外してください。
3. ドレンキャップからドレンパンの汚れやドレンポンプ吸込口を確認してください。汚れが多い場合はドレンパンを取外し、清掃してください。
4. 取外したドレンキャップカバーは確実に装着してください。
   装着が不完全な場合、結露・水漏れの原因となります。



ドレンポンプ吸込口の清掃

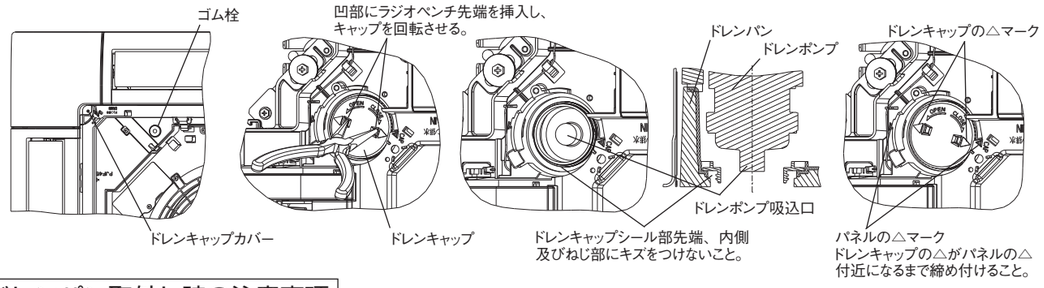
●ドレンキャップカバーを取り外す際は、本体の電源を切ってください。

● UV-C LED の清掃は必要ありません。

●パネルやドレンパンを取外さず、ドレンキャップを取外すことでドレンポンプ吸込口及びその付近の清掃ができます。
（高性能フィルタなどのオプションスペーサやお掃除パネルの取付け時は確認できません。）

●ドレンキャップを取外す前に、ゴム栓を取外してドレンパン内のドレンを排水してください。

1. 前述のようにドレンキャップカバーを取外してください。
2. ドレンキャップの凹部（２ヶ所）にラジオペンチの先を挿入し、反時計回りに約１回転するとドレンキャップを取外せます。
3. ドレンポンプ吸込口を清掃する場合はプラスチック製の道具を使用してください。金属製の道具を使用するとドレンキャップ取付け部をキズつけ、水漏れの原因になります。
4. ドレンキャップを取付ける前に、流水で水洗いし、**ドレンキャップ内側の異物を取り除いてください。**異物が付着したままドレンキャップを取付けると水漏れの原因になります。
5. ドレンキャップの取付けは、ラジオペンチでドレンキャップの凹部を使用して取付けてください。時計回りに約１回転させ、**キャップが回転しなくなるまで締め付けてください。**キャップが１回転以上回転しない場合は正しく取付けられていません。一度、ドレンキャップを取外し、改めて取付け直してください。
6. ドレンキャップ締付け後、ドレンキャップの△マークがパネルの△マーク付近にあることを確認してください。ドレンキャップの△マークがパネルの△マーク付近にない場合は、増し締めしてください。
7. 取外したドレンキャップカバー , ゴム栓は確実に装着してください。装着が不完全な場合、結露・水漏れの原因となります。



ドレンパン取外し時の注意事項

●ドレンパンを取外す前に、ドレンパン内のドレンを排水してください。ゴム栓を取外して排水してください。

●ドレンパンは仮止めプレートで仮止めされています。ドレンパン取付ねじ（2個）を取外し、仮止めプレートのねじ（2個）を緩めてください。
仮止めプレートをドレンパンの外側にスライドしてください。ドレンパンを取外せます。

●ドレンパン取付け時は、仮止めプレートを内側にスライドし、ドレンパンを仮止めしてください。その後、ドレンパン取付ねじ（2個）と仮止めプレートのねじ（2個）を締付けてください。また、取外したゴム栓は確実に取付けてください。

